

この宝の海を、未来につなげるために活動しています!



海に定着できる海藻を育てています



特集

藻場の再生から、海の環境を守る



豊かな藻場で育った天然のウニを精魂こめて丁寧に商品化した「袈裟丸うに」



地球温暖化によって生態系の変化が進む現代。今回は、唐津の海を守るために、唐津市鎮西町で藻場の保全活動を行う海士にお話をうかがいました。

2026年夏頃 OPEN

トピックス



佐賀の岬から世界の海を取り戻そう。

世界海洋プラスチックプランニングセンター(仮称)
愛称: PLA PLA (プラプラ)

玄界灘を舞台に回収から再生、体験などを通して、海洋プラスチックの問題について学ぶことができるセンターが誕生します。ここを訪れた人が学び、考え、行動し、交流を生み出す。佐賀発、世界初の海洋プラスチック専門拠点にご期待ください!



波戸岬に気軽にプラッと立ち寄れる施設が誕生します!



詳しくはコチラ

※イメージです

「磯焼けが起こって、さまざまな海洋生物の餌場や生息地が失われることは、魚やウニの減少につながります。漁業を仕事とする自分にとっても大きな問題で、何ができるかを考えたのがきっかけです」と、活動を始めた当時は振り返ります。

袈裟丸さんの保全活動では、ガンガゼウニなどの有害生物を駆除する一方で、海藻を育てて海に定植させています。ウニ漁を行う傍ら、地道に活動を続けて、20年以上。その結果、鎮西町串浦地区の沿岸2.5km(約11ha)の範囲の海が、磯焼けで荒れた姿から、森のように海藻が生い茂る本来の姿へと再生しました。この取り組みは国内でも類を見ない成功例として高く評価されています。

「自然のことだから何もできないということではなく、自分一人でもできることを続けて積み重ねてきた結果だと思えます。長年、海の持つ大きな力を誰よりも目の当たりにして体



ガンガゼバスターズの仲間たち

感じているからこそ、この活動は続けていきたいです」と袈裟丸さんは力強く話します。

今では、袈裟丸さんの想いに共感した地元漁師たちも加わり、ガンガゼバスターズとして藻場の保全活動に取り組んでいます。

「海の中から地球を救うこともできる」。そう信じて、海を守り続けるための活動を続けている袈裟丸さん。もっと海のことを知ってもらうべくその活動の幅は広がっていきます。



取材協力
袈裟丸マリン合同会社代表
袈裟丸 けさまる しょうぞう 彰蔵さん・みどりさん
(右) (左)

詳しくはコチラ

